

優秀賞

川を守るには

私は川が好きだ。小さい頃、近所の飯能河原に家族で遊びに行った記憶は、今も鮮やかに思い出すことができる。弟と一緒に騒ぎながら川へ入り、「冷たい！」と言って笑い合った。飛び込みに挑戦したり、バーベキューをしたり、キラキラと輝くような、私の大切な思い出だ。

そんな思い出の詰まった飯能河原だが、近年、トラブルの発生が問題視されていたようだ。内容は、ゴミの放置や投棄、臭いや騒音、交通渋滞、さらに、ケンカ等のトラブルなど。これらの問題やコロナ禍の影響もあり、令和三年八月には、飯能河原は一時閉鎖になってしまった。同年の十月には、火をさせる場所を制限し、有料化することで閉鎖は解除されたが、一時的ではあったとしても、飯能の自慢の一つである飯能河原の閉鎖は、とても残念な出来事であり、みんなとの交流の機会が減ることに寂しさを感じたのを覚えている。

これからは、このようなことで私と同じように悲しい気持ちになる人は減らしていきたい。そこで、自分にできることを考えてみようと思った。そのためには、まず川について改めて知る必要がある。そう思った私は、川で起きている問題について一から調べてみることにした。

調べてみると、国内外の川では様々な問題が起きていることがわかった。その中でも、生活排水による川自体の汚染が特に問題視されているらしい。これは、家の台所やトイレ、お風呂の汚れなどが川に流れ込むことで起きている。生活排水は川を汚す原因の約七割を占めており、川が汚れることで、悪臭や生態系の破壊、病気の蔓延や、農作物への影響など、様々な被害が発生する。それらにより、水がきれいなことで有名な日本でさえ、未だに汚い水を使わざるを得ない人達もいる。

この情報を知って、私は大きな危機感を感じた。私達の生活を助けてくれている水は、私達の手で汚されてしまっているのだ。

飯能市立美杉台中学校 三年 岩崎 美空

私は、川を守りたい。私達の生活を助けてくれる大事な存在を私達自らが破壊するなどあつてはならないことだ。

では、川を守るにはどうしたら良いか。それについても調べてみると、現在日本では、食べ残しや油を減らし、排水口に流さないようにする、洗剤の量を適量にする、皿の汚れを取ってから洗うなどの取り組みを呼びかけていることがわかった。

その内容を見て、もっと難しいことをしなければいけないと思っていったため、なんだか拍子抜けだった。こんなに簡単なら、まず私自身がこれらの対策を行ってみようと思った。なんにも大きな何かをしなければいけないわけではない。完璧でなくてもいい。少しでも、普段の生活で「きれい」を意識した。そうすると、次第に周りの人も行動してくれるようになり、なんだかいことをしている気分になった。なにより、この活動が水をきれいに保つことにつながるのだと思うと誇らしく思えた。

私は、川が大好きだ。この美しい川や、その元となる水をこれから先、失いたくはない。私は、是非もっと多くの人に水を意識した生活をしてみてほしいと思う。自分だけが変わっても、なんて思わずに行動してみたい。あなたのその積み重ねが大きな変化をもたらすのだから。